

「ぬくもりの家」・「ぬくもりホーム」見学♡♡

平成29年9月5日（火）にさんかく21・安城の構成団体である、「社会福祉法人ぬくもり福祉会ぬくもりの家」施設長の飯野さんにご案内いただき、大東町にある「ぬくもりの家」と「ホームぬくもり」の見学に行き、施設の概要や男女共同参画に関する取り組みなどについて説明を受けました。



ぬくもりの家

【ぬくもりの家】

「ぬくもりの家」は知的障がいのある方が通う施設で、利用者の個人的な能力や希望に応じて日中活動（午前9時から午後4時まで）の支援を行っています。

具体的には、自主製品作り、軽作業やレクリエーションなど地域の方との交流の機会を通じて、利用者さんが毎日楽しく過ごせるような施設運営をおこなっています。

【ホームぬくもり】

「ホームぬくもり」は「ぬくもりの家」のすぐ近くにあるグループホームで、主に夜間（午後4時から翌日9時まで）において、食事や入浴などの日常生活上の支援を行いながら、共同生活を送るための施設です。現在は4名の方が世話人と呼ばれる職員と一緒に暮らしています。



「ホームぬくもり」の室内

いいの
ぬくもりの家施設長飯野さんから

* 女性が働きやすくなるために

「ぬくもりの家」も「ホームぬくもり」も圧倒的に女性が多い職場です。とりわけ子育てしながら働く女性に支えられていると言っても過言ではありません。

ただ、管理職（施設長や主任）には女性がいなかったため女性の声が届かないことや、産休・育休制度があるのに、利用しないで離職するなど、女性にとって働きやすい職場であるためには課題があると思っています。結婚や出産が離職につながらないような仕組み作りが必要です。そのため、法人内に女性がもっと働きやすくなるためのプロジェクト会議が発足しました。まずは圧倒的に男性が多い管理職の理解が不可欠だと思っています。



いいの
飯野さん

* 見学に来てもらうメリットとは

ぬくもりの家には支援度の高い利用者が多く、見学者が利用者の予期せぬ行動に驚かれることもあります。施設に見学に来ていただくことは私たちにとって、とても嬉しいことです。というのは「職員以外の人」が施設に入ることには「支援方法の見直し」につながるからです。施設内の狭い世界であたりまえに職員が行っている「支援」が実は第三者から見たら「不適切な対応」になっている可能性があります。そのような意味で見学後に感想や疑問点を聞かせていただくことは、支援方法の見直し、ひいては利用者さんの権利擁護につながるのです。



「ぬくもりの家」作業風景

* 見学を終えて

施設やグループホームの前を通ることはあっても、中に入ることはほとんどないので今回の見学は貴重な機会となりました。また女性が働きやすい職場となるよう、さんかく21・安城としても見守りながら応援していきたいと思っています。